

建設不動産部会報

第20号



住宅金融専門会社の 処理のあとに来るもの

副部長

(株)ラッキーコーポレーション

代表取締役

鈴木 正彦 (昭40経営)

1995年は経営が行き詰まった住専の不良債権の処理方針がようやく決まった年であった。住専7社の整理で発生する一次損失6兆4,100億円は、設立母体金融機関が3兆5,000億円、非母体の一般金融機関が債権の一部である1兆7,000億円を放棄。住専に資金の4割に当たる5兆5,000億円の債権を持つ農林系金融機関に対し、政府は当初1兆2,000億円程度の負担を求める考えだったが、農林族議員の圧力により結局5,300億円の負担で済ませ、不足分6,800億円は公的資金導入(=国民の負担)となったのである。

以上は、貸し手側から見た不良債権の処理である。

さて、借り手側はどのように見ればよいのであろうか。平成の「徳政令」として、借金棒引きとなるのであろうか。それでは余りにも虫が良すぎるように思える。

米国では80年代後半、貯蓄貸付組合(S&L)の倒産が多発した後の処理の時点で逮捕者が続出、1千人を超えた。

週刊ダイヤモンドの昨年11月4日号に興味深い記事が掲載された。題して「近未来ドキュメント・銀行が不動産業に破産宣告を突きつけ、土地が動きだす日」である。以下にその内容の一部を紹介する。

『世論の圧力を受け、ようやく99年を境に、不動産業及びバブル企業のリストラが本格的に始まった。不動産業を管轄する建設省、産業界に支配力を持つ通産省、土地の監視人である国土庁などが中心となって「不動産活性化のためのプロジェクト・チーム」が発足し、「不良不動産」処理に大ナタを振るうことになった。プロジェクト・チームは、大蔵省を説得して、銀行に不動産業の大手術をするよう仕向けた。“脳死状態”にあり、生命維持装置をつけられていただけの不動産会社がついに破産を宣告され、倒産が相次いで起こった。不動産投資、リゾート開発それに株式投資、絵画、ゴルフ会員権に走った企業、かつて東京、大阪で危ない不動産会社といわれた企業が、ごく一部を除いて姿を消した。=中略=不正に対しても厳しい追及が行われ、金融機関、ノンバンクの経営者、不動産業者の逮捕劇が連日、新聞とテレビを賑わせていた。=後略=』

このような日が来ないと誰が断言できようか。

総 会

平成8年4月24日(水)、第11回総会が大学会館6階会議室で行われ、当日は43名の部会員が集まりました。丸山部会長の開会の辞に始まり、兼松副部長による平成7年度活動報告、近藤財務部長の会計報告、役員改選の審議の後、沼田企画部長の平成8年度活動計画案についての説明がありました。

会長には丸山藤夫氏(昭34・商)が再選されました。

新たに部会を活性化し、新入部員を増員するために組織開発部が設置されました。

総会終了後、東京都立大学人文学部の渡邊欣雄教授に「学術研究と風水文化の発見」と題して、講演していただき、風水文化と建物の関係について興味深いお話を伺いました。

第2部懇親会では、会場を小川町の「アミ」に移して、新部会員になられた方を始め打ち解けて話しがはずみしました。宴もたけなわ、明大校歌を斉唱した後、お開きとなりました。



丸山部会長の挨拶



総 会

今回役員には、次の方々が選ばれました。役員の任期は、平成9年3月末までです。部会の発展のために頑張りますので、宜しくお願いいたします。

当部会の顧問をされております法学部の玉田教授が定年退職され、4月1日付で明治大学名誉教授になりました。また、4月1日より清和大学法学部専任教授(千葉県木更津市)にも就任されております。

新役員

顧 問 玉田 弘毅 明治大学名誉教授・清和大学法学部専任教授

相 談 役 庄司 光克(昭30・商)

部 会 長 丸山 藤夫(昭34・商) (株)日経コンサルタント

副 部 会 長 中川 俊夫(昭34・工) (株)ナカノコーポレーション

副 部 会 長 兼松 紘一郎(昭37・工) 兼松設計(株)

副 部 会 長 三橋 一夫(昭39・商) (株)三橋庭園設計事務所

副 部 会 長 鈴木 正彦(昭40・経営) (株)ラッキーコーポレーション

事 務 局 長 秋元 道別(昭41・法) (株)ラッキーコーポレーション

事 務 局 高橋 弘(昭61・商) (株)久保工務店

財務部長	近藤 翠 (昭45・政経)	(株)紅葉不動産
財務部	吉良 昭 (昭52・工)	千代田工販(株)
財務部	門倉 規之 (昭52・工)	積水プラントシステム(株)
広報部長	榎本 行男 (昭45・政経)	大和土地建物(株)
広報部	河合 敏之 (昭40・政経)	前田建設工業(株)
広報部	上野 信昭 (昭48・商)	(株)大本組
広報部	池田 守雄 (昭51・農)	日興不動産(株)
企画部長	沼田 傑 (昭46・経営)	エーピーサイン
企画部	柳沢 克行 (昭53・政経)	(株)NTT・ダイナミック・アドメディア
企画部	芝名 康弘 (昭60・商)	日本旅行(株)
企画部	川原 昌洋 (平5・政経)	MTシステム(株)
組織開発部長	加藤 知裕 (昭35・経営)	(株)フレンドリー不動産
組織開発部	曾我 純一 (昭39・商)	(株)トステム
組織開発部	土金 雅晴 (昭41・商)	土金商事(株) 代表取締役
組織開発部	近藤善七郎 (昭43・工)	松村組(株)
組織開発部	吉良 昭 (昭52・工)	千代田工販(株)・財務部兼任
監事	細田 安治 (昭31・政経)	細田木材工業(株)
監事	鈴木 康弘 (昭39・商)	(株)鈴木基弘商店

平成7年度決算報告

収入の部	(円)	支出の部	(円)
(1)6年度会費	4,000	(1)通信費(切手・ハガキ・郵便)	152,780
(2)7年度会費	528,000	(2)印刷費(名簿・案内状・掛・部会報)	66,950
(3)7年度会費	100,000	(3)会場費(総会)	43,260
(4)総会会費	156,000	(4)パーティ費(総会・納涼・勉強会・新年会)	1,186,612
(5)勉強会会費	84,500	(5)講師等謝礼	205,000
(6)パーティ関係会費	1,100,500	(6)年会費振替手数料	6,180
(7)雑収入	331	(7)勉強会ジュース代	12,600
(8)前期繰越金	101,731	(8)雑費(写真代・記念品・振替手数料他)	30,801
		(9)次期繰越金	270,879
計	1,975,062	計	1,975,062

※別途に賀詞交換会等でのオークション売上代金 108,591円があります。

平成7年度活動報告

(シンポジウム)	4月19日「兵庫南部地震を考える」	須町・久保工務店
(総会)	5月23日 第10回 総会	明治大学会館
(勉強会) 竹内 貞夫氏	7月11日「限界村山政権?(デフレ経済の恐怖)」	須町・久保工務店
(懇親会) 納涼パーティー	8月26日 青山・テトロンガ-	
(同好会) 第2回ゴルフコンパ	11月18日 川越・グリーンクロス クラブ	
第1回ハイク	11月18~19日 奥多摩 鳩ノ巣溪谷散策・大岳山登山	
第2回釣り会	11月26日 内房 富浦港(酒井丸)	
(見学会)	12月9日「臨海副都心開発の見学・臨海新交通「ゆりかもめ」より未来都市を見る」	
(懇親会) 賀詞交歓会	8年1月25日 恵比寿ガーデンプレイス・YEBISU倶楽部	

平成8年度活動予定

平成8年4月24日(水)	第11回 総会	明治大学会館
6月3日(土)	第3回 釣り会	鎌倉・小坪漁港
8月17日(土)	納涼パーティー「花火大会」	神宮球場
10~11月	勉強会	
秋	明大昭和会第25回総会	明治大学会館
秋	第2回 ハイキング	
11月頃	第3回ゴルフコンペ	川越・刈り草
11月頃	第4回 釣り会	
平成9年1月	新年賀詞交歓会	
3月	勉強会	



活動報告(兼松副部会長)



第2部懇親会



北京城の風水

東京都立大学人文学部教授・明治大学講師
渡邊 欣友雄 先生

I. 都市計画だけで都市は建つか

わたくしはこれまで、都市を研究するなど考えも及ばないことだったが、東アジアでフィールドワークを重ねるうち、ついに都市にまで行きついたという感がある。わたくしの風水研究がそうさせたわけだが、それは「都城風水」を知るに及んでのちのことである。ただ、都城風水研究に意義のあることを知って、あたりを見回してみると、日本では驚いたことに、どの分野といわず研究蓄積のないことに気づく。いまは、なぜ海外に都城風水研究があって日本にないのか、その国情まで疑うことしきりである。そこで日本では紹介されることの甚だ少ない「都城風水」の一例を、ここに紹介してみることにした次第である。

話は北京城の風水史についてなのだが、それについて述べる前に「都城風水」とは何かについて、若干の紹介が必要だろうと思う。これまでわたくしは幾度となく「風水」という、ある者にとっては<占い>のように見え、ある者にとっては<研究の邪道>のようにみえる「異文化」を紹介してきたわけだが、依然誤解が少なくないと感じているからである。

人はいかにして都市を造るか。都市形成にもさまざまな類型が考えられるが、国家的な計画都市＝北京を例に考えよう。

北京といえば、多くの概説書では、元の成祖フビライの下問に応じて、当時の優れた設計家・劉秉（へい）忠の建議により、それまであった金の中都を廃し、数倍するほどの新たな都城＝大都を建設したことになる。そしてかれは、『周礼・考工記』に準じた都市プランにより大都を設計したとされる。しかし『周礼・考工記』に準じて建設されたとされる中国の国都は、なにも北京ばかりではない。どこもそうではなからうか。

それにもかかわらずである。少なからぬ中国の都市研究者が気づいていること、それは「中国のどの都市をとってみても、『周礼・考工記』の都市プランに忠実な都市は存在しない」ということである。計画都市には、都市「計画」が必要なことはいうまでもない。しかしその設計図とは、単純に『周礼・考工記』のような空想にも等しい大原則や理想を具体化したものとはいえないのである。

II. 八臂毘沙門天城の伝説

いまに伝わる北京城伝説のひとつに、「八臂毘沙門天城」の話がある。伝説は伝説であって史実ではないが、都市形成の理解にあたってこの伝説は、いくつかの要点を教えてくれているように思う。

ときは明の朱元璋の時代。朱元璋は元を打ち破って大都（北京）に入るや、蒙古の捲土重来を防ぐため、工部大臣の建議にしたがい「天文・地理の学識に通じた將軍」に、北京の造営を任せることになった。任された將軍は、劉伯温と姚広孝だった。かれらは任じて別々幕営を張り、毎日、「地域一帯の妖怪＝龍を鎮めるため」北京周囲の「地形調査」を行い、都市計画の設計・立案にこれつとめることになった。

都市計画の立案に重大なヒントを与えたのは、赤袷に半ズボン姿の怪童だった。怪童は毘沙門天の化身であった。怪童は毎日、両將軍につきまとして「わたしの言うとおりに都市設計図を描きなさい。さもないと必ず失敗しますぞ」と耳打ちした。結局、両將軍の都市計画プランは、怪童の姿形を地に投影した北京城の図面、すなわち正門が怪童＝毘沙門天の顔、正門近くの井戸が毘沙門天の眼、東西八つの門が毘沙門天の八臂（八つの腕）・などとなり、「人体を模した」都市計画がなった、という話の筋である。だから北京城は、別名「八臂毘沙門天城」ともいう。

この伝説を挙げたのはほかでもない、都市計画の立案にあたっては、いくつかの条件があることを教えてくれているからだ。

第一に、中国では都市計画の立案者たるもの「天文・地理の学識に通じた將軍（知識人）」でなければならぬ、ということである。いいかえれば、天文・地理を解説した『易経』その他の知識に通じた人物でなければならぬということだ。第二に都市計画の立案にあたっては、「地域一帯の妖怪＝龍を鎮めるため」、周囲の「地形調査」を行う必要があるということだ。この「妖怪＝龍」とは、たんに中国人の恐れる鬼魂のことではない。乱れた地気のことであり、現代流に言えば都市災害をもたらす風水害の源であって、それを防ぐ手立てを計画に盛り込むことである。ために「順調に働く地気」を捜し当てるべく、「地形調査」が行われるのである。そして最後に、「人体を模した」都市計画こそ、周囲の環境に見合った理想的なプランになるということである。環境の好影響、つまり好い地気を間断なく受ける都市にするには、人体との相似形に勝るプランはない。「中軸・対称・相々環抱」の中国的造形プランは、ひとり都市のみならず、あらゆる造形空間の基本型とされてきた。

かような条件を満たそうとする思想、それが「風水思想」であり、前近代中国の環境アセスメントの基本知識だったものである。

III. 北京城の風水

元の時代、フビライに都市立地点の選定や都市設計プランを任されたのは、多くの紹介書にあるように建築設計家・劉秉忠だった。かれは「易経」に通暁した学者だったことで知られるが、だからこそ都市設計プランは、アメリカの歴史学者アーサー・F・ライトが指摘したように、風水思想の影響を強く受けたとされている。同時に、蒙古貴族パトロ（巴図魯）もまた、フビライに幽燕（北京）の地を国都にすることを、つぎのように進言したといい、進言の内容は風水思想の特徴をよく示したものとなっている。

「幽州燕京の地は、龍蟠虎踞の地、すなわち東西に龍・虎が鎮座して地形条件が雄大であり、南は揚子江と淮河といった大河を控え、北は砂漠に連なっている。だから天子たるものこのような環境条件の中央におれば、必ずや四方から朝貢を受けるだろうから、天下を経営しようと思うなら、この地に留まるに越したことはない」と。このように地形から国都の命運を読み取ろうとすること、かような発想によって元の国都=大都の建設が始まったとされる。

時代は14世紀、明の時代に移る。元を倒した朱元璋は、北を平定したという意味でこの地を「北平」と改称したが、国都にはしなかった。理由は、曰く「〔大都の地〕王氣衰えたり」、曰く「〔大都の地〕地氣すでに尽く」と、いくつかの本に紹介されている。国都の候補地は開封、朱元璋の故郷=臨濠とあがって、結局南京に定められた。歴代遷都理由は、むろん多くの理由があった。その理由のひとつに「王氣衰えたり」とか「地氣すでに尽く」などという、風水上の理由があったことは忘れるべきではなからう。

やがて成祖・永楽帝の時代になって、やはり国都は北平の地が良いと考えられるようになる。のちに北京となるこの地が、永楽帝の封地だったことが再遷都の動機といえど動機だった。そこで永楽帝の希望に合うかどうか、遷都をめぐる臣下の間で議論があった。考慮されたのは、北平の地を首都として改修する際のコスト、防御上の問題、気候、歴史的経緯、そして風水条件だった。やがて結論が定まり、永楽帝は北平を北京と改称して、ここに国都を再建する意志を、こう述べたという。

「ここ北京を思うに、まさに都会そのものである。地勢は雄大で山川は鞏固であり、四方万国に通じ、等しく道理に適う」と。その道理とはなにか。それはいうまでもなく、元代の定都判断とはほぼ同じ、地形を含めた土地条件に貫く大原則のことだった。

明初の名臣・劉基が、北京を詠ったとされる一首の詩歌がある。

北龍、地に結ぶこと最も佳し
万頃山峰、入り望みて賒(とほ)し
鴨緑・黄河、前後を抱き
金台千古、帝王の家

北からの地気が地に結穴することが、〔風水〕最も良い。幾多の湖水や峰々が入り組んで、望見しうる空間もまた広い。鴨緑江と黄河が前後を抱えるようにして流れ、この地まさしく、いにしえより帝王の住まいたるにふさわしい。

永楽帝の北京遷都以来、いっときを除いてこんにちまで、北京は風水上の好条件を失わないまま、中国の政権を支えつづけている。

平成7年7月 勉強会



平成7年7月11日(火)淡路町の(株)久保工務店9階会議室においてフジテレビ解説委員の竹内貞夫さんを講師にお願いして勉強会を行いました。その後平成8年1月11日村山内閣は総辞職してしまいました。参加者は、45名でした。

「限界・村山政権？」

フジテレビ解説委員
竹内 貞夫 先生(32 文卒)

私は、母校の先輩である総理大臣に対し、ゴマをするとか、遠慮するとかはしません。先輩として敬意を払うべきだとは思いますが、遠慮をすると話がおもしろくなります。(笑)

さて「年金の村山」、「福祉の村山」とよく言っていますが、社会労働委員会の経験はあるが、大臣や政務次官はやったことがない。今迄の総理の中ではよくやっている方で、平穩無事な時だと、もっと評価は上がっていると思います。

今日は、話の結論を先に言いますが、『1月17日の地震を契機として、傷んできている時だと思えます。』5500人以上の死者が出た時、本当は首相を辞めたがっていたが、その後のサリン・オウム等で耳目がそちらへ行き、責任追求とならなかった。現在一番の問題が経済であります。

①円高 ②株安 ③空洞化 ④価格破壊 ⑤雇用 の5つのキー・ワードがあります。

2000年には、970万人の失業者とも言われており、今日600万人の失業者がいるとも言われています。戦後50年初めてのデフレのまった中、対応策が立ち遅れ、閉塞感、イライラやモヤモヤ、不安が充満し、打開策なしといった感すらあります。そこでこの状況を変えるために、「一日も早く解散総選挙をやる」ことが必要であります。国民の目に分かるように、スピーディーに強力な内閣を作るべきです。

顔の見えない村山内閣の対応の悪い例として、阪神大震災があります。その一報から4時間経ってからの対応、そして指示が遅い。国土庁長官への指示は、11時に文化人との会合の時、「総理こんなことをして大丈夫ですか」と言われ、12時の政府与党連絡会の時で、死者多数のメモを渡され、初めて事の重大さに気がついたのです。感性が鈍い上に、システムに危機管理がない。ちなみに、総理官邸にコンピューターは一台もありません。その上、官邸に泊まりはなく、午後5時過ぎると、村山氏一人になります。FAXのみで無人の所に流れているのみです。

6月12日に新進党の内閣不信任案が唯一の解散総選挙のチャンスでしたが、小沢一郎は今は「裸の王様」となっています。細川政権までは、脚本、監督をし、政治感覚の鋭さ、国際性、理念はすごいが手法が強引なため、回りの者が去って行く。独断専行、我がまま、やりたい放題、曰く、「国民の声を聞いていると、衆愚政治になる。指導者が、国民をリードしていかなければならない。」小沢一郎の、一・一コンビは既成の秩序をぶち壊す時は力を発揮する。小沢一郎の力が強い時には自民党はまとまっていたが、弱まったので自民党の中のゴタゴタが出てきたのです。梶山、YKK、旧経世会、河野洋平等々。

野坂建設相は新進党はまとまっていないのでチャンスだから、解散総選挙をやるべきだと言っている。しかし、山口鶴男等は、それ以上に社会党がまとまっていないのでやめた方がいいと言っている。自民党は河野洋平でまとまらない。しょうがなくやっている。洋平は護憲派(左派)で、後藤田も、宮沢も同じ考えであるが、自民党の大多数は反対の立場だ。三代スターの石原、橋本、河野であるが、河野は中では人気がない。銀のスプーンをくわえて、生まれながらに駕籠に乗る人と思われている。子分を作っていくようなところがない。冷たく、人の傷みが分からないと思われている。7月20日の国庫負担130億の分配の仕方等、問題となり、森幹事長の役割が重要になります。そのまま力を維持したいと思っているのです。第一党である自民党も、河野VS橋本となり、梶山(旧経世会グループ)も、小淵(地元県連会長で中曾根に破れる)も、そのまま村山政権を続けた方が増しと思っているのです。

次のことは自分なりの考え方であるが、国会決議で戦争を謝罪するのどうのと揉めているが、社会党は、日清、日露ですら、侵略戦争と言っている。すべての戦争は悪いが、今迄の中でいい戦争は、あえて言えば日露だと思う。ロシアによる南下で赤化されていた。1,118人が、B、C級を入れて東京裁判で死刑となった。歴史家が、この結論を50年後に出すべきで、ましてや、国会決議で出すべきでない。私は批判的に見ている。

今度の選挙、青島、ノックにみられる無党派層の台頭。それは、①まじめに日本の政治を考えるが、今の政治、政党を批判し、いわばお灸をすえる。②政治的愉快犯。確信犯で政策は気にしていない。若い世代に多い。の二つに分かれる。投票率が44%から50%に上がった、この6%の半分が愉快犯である。それは、得票の順番、青島、石原、岩国、大前と、政策を言わなかった順序になっていることから分かる。後はどうなろうと知ったことじゃないと考えるアナキーである。その台頭の理由としては、①社会党等にみられる冷戦構造の崩壊で、垣根がなくなり、選択に迷ったこと、②細川政権への失望感。それはその指示率が今までの最高が、59%だったのが、殿様大好き、エエカッコしい等で、74%

～84%もあったことから、政策の分からない人、(米のウルグアイ・ラウンドで760～560億ドルまで7年間で下がっていくのが理解できなかった)となり、最後は佐川急便であったり辞めたこと等が、失望感となった。③今の与党の組み方の分かりにくさ。にあると思う。

今後の参院選は最低投票率になるだろう。低くなればなる程、特定の政党ファンは居るので、共産党は生き残る。社会党ファンは反発。消費税、非武装中立を指示していたのに政策変換をしてしまった。垣根を失くした。お互いに垣根がなくなり、どの政党が組んでも国民もびっくりしない。参院選は、社会党がどの位負けるかが焦点となる。私は21世紀に無くなる政党だと思います。政治のプロが巷で言われているのは、22人の改選が、20人以上は勝ちムード、村山政権は安泰です。10人以下の場合は、退陣。問題なのは、10人～15人の時です。これがむづかしい。しかし、私は、例えひと桁でも、村山政権は維持されると思います。それは、村山を辞めさせない勢力が強いからです。村山が辞めるとパンドラの箱を開けることになる。村山はパンドラの箱のふたであり、死に体だけど続く不思議な政権であります。自民党を中心として政権を長らえさせる大きな力が働くのです。しかし、今までも土井、石橋と、参院選の後辞めている。もし村山が退陣すれば、河野内閣になる。

無党派層が増えるのは好ましくない。21世紀のビジョンは、①もう一度世界に誇れる経済の復興をめざすのか、②裕福でなくても、ゆとり、自然等を大切に生きていくのをめざすのか、選択する時に来ているのだと思います。

(スピーチ本文 終了)

広報 村上 記

平成7年納涼パーティー

平成7年8月26日(土)恒例の納涼パーティーが青山テアトロスガリーで行われ、ロシア料理とロシア民謡を楽しんだ夕べでした。参加者は、48名でした。



納涼会に出席して

庄司 美代子

(庄司 相談役の奥様)

青山のロシア料理店、テアトロスガリーでの納涼会、加藤登紀子さんのお姉さんのお店と聞いて、楽しみに出席しました。

珍しいお料理で、久しぶりにお会いした方々とお喋りもはずみました。

また、ギターとアコーディオンが奏でるロシア民謡のメドレーは、どれも馴染みの深いもので、特に感情豊かに歌い上げるボーカリストの声はいまも耳に残っています。

みなさんと合唱した“カチューシャ”や“トロイカ”など、改めてロシア民謡のすばらしさを感じました。近年、大きな変化を遂げたロシアですが、このような歌は永久に歌い継がれていくのだと思うと嬉しくなります。

文化や昔から伝えられる厳寒の風土に生まれた料理など、国や人種を越えて人々の交流や和を育くむ偉大な力をもつことに思いを馳せました。そういえば私が初めて見たカラー映画はロシアの『石の花』だったとふと思い出しました。

楽しい納涼会をどうもありがとうございました。



ロシア民謡



全員でロシア民謡の合唱

臨海副都心見学会

臨海新交通「ゆりかもめ」より未来都市を見る』

平成7年12月9日

青島都知事が誕生して以来、世界都市博覧会が中止になるなど、臨海副都心の開発計画の見直し問題が都議会、新聞、テレビ等で問題となっております。

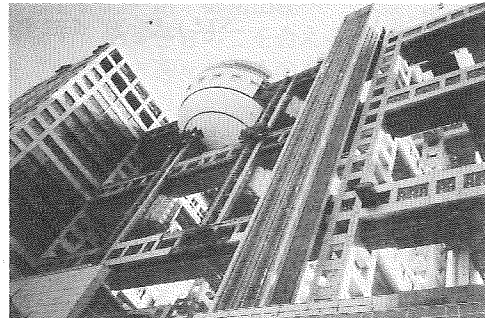
都市博の建設予定地についても、どの場所であったか、お判りになる方も少ないのではないかと思います。そこで、平成7年12月9日(土)臨海副都心の見学会を開催しました。

いま、開発問題が取り沙汰されています臨海副都心は、港区、品川区、江東区の3区にまたがる面積448ヘクタールの大プロジェクトで21世紀の都市を目指して現在開発が進められております。テレコムセンタービル、フジサンケイビルを始め超高層ビルが現在竣工・建設中のものを含め15棟に上ります。

臨海新交通「新橋」駅より「ゆりかもめ」に乗車し、レインボーブリッジを渡ると、そこは臨海副都心の入口、港区の台場地区です。ここから「ゆりかもめ」の車窓より現在建設中の21世紀の未来都市の一部が一望でき、この景色に、びっくりされることでしょう。



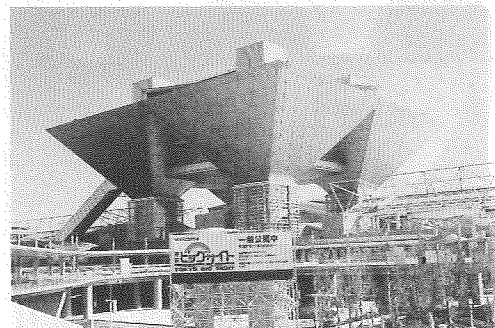
ゆりかもめ1日乗車券



フジ・サンケイビル



フジ・サンケイビルの見学



東京ビッグ・サイト(国際展示場)

「台場」駅で下車し、F. C. Gビル（フジサンケイビル）を鹿島建設(株)のご好意により見学させて頂きました。現場事務所で、鹿島建設の平瀬課長より、建物の建築概要及び臨海副都心の詳細な説明を受けた後、このビルの特徴である球体展望室（直形32m・重量200トンあります）の内部、さらにテレビスタジオを見学しました。

次に、「国際展示場」駅に下車し、東京ビッグ・サイト（国際展示場）のレストラン「シーサイドありあけ」で昼食の後、「国際展示場」の中を見学を行いました。

さらに、「テレコムセンタービル」駅で下車し、テレコムセンタービル1階で、鹿島建設の力山さんより建築概要についての説明を受け、20階の展望台より千葉、神奈川方面、臨海副都心の景色を眺めました。

最後に、「船の科学館」に行き、「船の科学館」展望台より、臨海副都心東京港を一望し、解散しました。大変有意義な1日でした。

臨海副都心は、新しい都市です。ぜひ一度「ゆりかもめ」での見学をお勧めします。



テレコムセンタービルからの展望

平成7年12月9日（土）のスケジュール

- 10時 臨海線「新橋」駅集合
- 10時20分 「新橋」駅発車
- 10時35分 「台場」駅に到着
- 10時40分 フジサンケイビル見学（1時間20分）
- 12時20分 「国際展示場」駅到着
- レストラン「シーサイドありあけ」にて昼食
- 14時 「テレコムセンタービル」駅到着
- 14時10分 「テレコムセンタービル」見学（1時間）
- 15時10分 「船の科学館前」駅
- 15時30分 「船の科学館」展望台
- 16時 「船の科学館」見学
解散

平成8年新年賀詞交歓会

恵比寿ガーデンプレイス・YEBISU倶楽部にて

平成8年1月20日（金）恵比寿ガーデンプレイス・YEBISU倶楽部にて、恒例の新年賀詞交歓会が行われました。今回は中村好一さんの友人で、日本では有数のギタリストである柳澤伸之さんと渡辺幹男さんをお招きし、食事をしながらジャズの弾き語りを聞いて楽しみました。奥様ご同伴の方を含め、参加者は49名でした。



丸山部会長の挨拶



柳澤伸之さん・渡辺幹男さんによる弾き語り

ハイキング同好会
奥多摩紀行 (鳩ノ巣溪谷～大岳登山)

平成7年11月18～19日

まばゆいばかりの紺碧の空に恵まれ、白丸駅を出発した総員10名、眼下に奥多摩の清流を眺め、左上に紅葉の山々を仰ぎながらの散策、溪流沿いの道は、行き交う人も少く、晩秋の景観を十分堪能することができた。途中のダムの落下する水の勢いに圧倒され、更に進んで鳩ノ巣付近の大岩壁と溪谷の青く深い流れ、これに鮮やかな紅葉が映える素晴らしさ！

昼過ぎ一心亭に着き、名物“手打そば”に舌つづみを打つ。

鳩ノ巣から御岳への電車、そしてバスからケーブルと……、みたけ山駅から大塚山(921m)を経て御岳神社参拝、登山の無事を祈願した後、御岳山荘へ……

八百年の歴史を残す萱葺屋根の山荘の前で、土金さんの近代スポーツにかかせない“ストレッチ研修”は面白く、明日の登山を控えて足腰の疲れや痛みを解消しようと、みんな一生懸命。

風呂から上がって、さあ夕食、山荘自慢の手作り精進料理、刺身こんにゃくと大根の煮付の味はまた格別、どれもこれも美味で感嘆の声しきり、アルコールも程よくカラオケに興ずること暫し、9時が打ち止めの時間とか、早寝で明日の登山に備える。

翌8時朝食、9時出発、比較的なだらかな落葉踏む山道がほぼ1時間、間もなく岩場もあるアップダウンがひとしきり、チョロチョロであるがおいしい水呑場でひと休み、大岳神社からは岩場の急登、11時、遂に大岳山頂(1267m)到着、一点の雲もない360度展望に大歓声！ 日頃の行ないのよさを自讃しながら富士山をバックに記念撮影。

11時40分、登って来た道を下山、途中からロックガーデンへの道に入り綾広の滝を経て流れに沿った岩石づたいに歩を進める。

切り立った岩壁に覆いかぶさる様に根を張る松の緑、そして黄金色鮮やかな中に紅色が配された全山全溪谷の紅葉を目の当たりにして、自然の偉大な力を感じると同時に“秘境の大庭園”と評するに相応しい眺めに、予定をオーバーして足をとどめてしまった。

お腹も空いたし、この眺めから離れたくなし、しかし一路 御岳山荘へ……、

山荘着14時、全員無事を祝ってビールで乾杯！ 山菜ときのこを合えるつき出しと揚げだし豆腐の美味いこと、手打ちそばも味をそかねてはと吾々が帰るのを待って用意を始めた由、前夜に続き山荘の奥さんの心遣いに感謝！

15時、語らいの尽きぬ中、春秋2回のハイキングをやりたいとの意向を抱いて山荘を後にした。
 (同行同人記)



鳩ノ巣溪谷にて

第1回 ハイキング同好会 (記録)

行先 奥多摩 鳩ノ巣溪谷散策・大岳山登山

日 平成7年11月18日(土)～19日(日)

行程 参加 10名

第1日白丸駅～鳩ノ巣溪谷～鳩ノ巣一心亭(昼食)

10:40 12:10

鳩ノ巣駅→御岳駅→ケーブル下→みたけ山駅～

13:23 電車 13:40 バス 14:10 ケーブル 14:16

～大塚山～御岳神社～御岳山荘

14:50 16:10 16:30 (宿泊)

第2日御岳山荘～水呑場～大岳山頂 山頂発～ロックガーデン～

8:55 10:30 10:55 11:40

～御岳山荘 山荘発～みたけ山駅→御岳駅

14:00 15:00 ケーブル・バス 16:00

(山荘にて打ち上げ昼食)

(解散)

第2回ゴルフコンペ

明大昭和会建設不動産部会ゴルフ同好会

平成7年11月18日(土)埼玉県川越市古谷本郷川越グリーンクロス(5,474ヤード・パー71 午前8時5分スタート)で行われました。

当日は、晴天ながら北風が強く、向かい風では20~30ヤード近くもボールが戻され、横風ではグリーンの端を狙っても逆サイドまで流される大洗の風を彷彿させるコンディションのなか、明大精神の前進あるのみの精神で(前に打たないとグリーンに乗りませんが)参加者16名は、いささかも怯まず、終日プレイに打ち込みました。

成績発表のパーティーでは美酒に酔う者、苦杯をなめる者、悪酔いする者、皆和気あいあいの内に校歌斉唱、お開きと相成りました。



開催の挨拶 中川副部会長

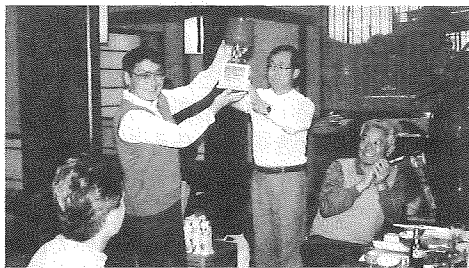


成績発表会

成績は、次の通りです。

優勝 大島 嘉矩さん
準優勝 池田 守雄さん
3位 村山 剛さん

グロス81 ネット70.4/71
グロス90 ネット73.5/71
グロス91 ネット74.5/71



大島さんへ優勝カップの授与

馬 3-4 22,800円

会員の方より開催を平日にとの意見があり、賛成多数で議決されました。

また、年2回開催しては?とのご意見については幹事会で検討事項としてお聞きいたしました。それと、ゴルフ同好会の会員証として、帽子の製作も検討しています。

今後は建設不動産部会の皆様もどんどんメンバーになって頂きたいと思っております。今は、男ばかりの会ですが、女性の方、ご夫婦でのご参加もお受けいたし、広く参加者を募りますので宜しくお願い申し上げます。

〔事務局〕 ☎151 東京都渋谷区代々木2-10-10

(株)ラッキーコーポレーション 事務局長 秋元 道別(41・法)

☎03(3370)8458 FAX 03(3320)1354

編集 榎本 行男(45・政経)

河合 敏之(40・政経)

広報部 上野 信昭(41・商) 池田 佳人(63・経営) 村上 仁志(55・法)